



第69期中間報告書

(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)

(証券コード 7525)

RIX リックス株式会社

事業紹介

商品

圧力発生機



プランジャーポンプ
高圧水の発生源となるポンプ
高圧水洗浄装置の動力源として利用

応用機器・システム商品

ロッキーワッシャー
多用途の高圧水洗浄機



金属接合機 (TOX)
異種金属板を接合する機械



商社
機能

付属機器・部品



オイルシール類
高圧の水・油を密封し外に漏れないようにする
外部からダストが侵入するのを防ぐ

関連技術商品



**三方ピストン弁
(ロッキーバルブ)**
高圧のガス等の流量を調整する弁
主にタイヤメーカーの加硫機に使用

製品

応用機器・システム製品

フラックス精密洗浄装置
半導体新製品 (CSP, BGA等)
の製造工程に使用されるフラ
ックスを除去し、純水にて精
密仕上げ洗浄を行う装置



**NC高圧洗浄機
(ジェットフレックス)**
自動車業界向けの、高圧
水を利用した部品の深穴
の金属バリ取装置



メーカー
機能

付属機器・部品

**クリーンルーム対応
ロータリージョイント**
半導体業界で、CMP設備な
どに水や研磨剤などを供給
する回転継手



**工作機械用
ロータリージョイント**
マシニングセンタでク
ーラント液をスピンド
ルから噴射する用途に
使用する回転継手

営業区分

リックスはお客様のニーズに
迅速・的確に対応できる顧客
密着型の「メーカー商社」と
いう業態です。

鉄 鋼

自動車

電子・半導体

ゴム・タイヤ

高機能材

環 境

紙パルプ

その他

株主の皆様へ



トップインタビュー



当中間期の営業概況について教えてください。

Answer

前年同期比で、売上高は12.2%増の153億59百万円、
営業利益は同14.0%増の6億21百万円、経常利益は同
7.9%増の7億8百万円となり、四半期純利益は同7.2%増の
3億84百万円となりました。

当中間期は、米国経済の緩やかな拡大が続いた一方で、欧
州経済は停滞し、中国経済は鈍化傾向を示しました。

日本国内での生産は、設備投資に持ち直しの兆しが見られ
るなど、緩やかな景気回復が続きました。

生産、設備投資ともに内需が伸びない一方で、国内製造業、
ことに当社グループの主要顧客である鉄鋼、自動車などの業
界は、外需、海外生産、海外向けの設備投資に成長の場を求め
る構造となっています。

このような環境のなかで、当社グループは、お客様の動き
に呼応する形で生産現場の問題を発見し、設備改修、更新、合
理化、増強、生産性向上など、さまざまな方面の課題を解決す
るための価値提案営業に努めてまいりました。

鉄鋼業界では特殊鋼材の生産と輸出が伸びていることか
ら、各種の製鋼用副資材の販売が好調でした。また、自動車生
産が世界的に伸びていることからタイヤ需要は旺盛で、海外
のタイヤ製造設備向けにタイヤ加硫機用バルブの販売が増
加しました。このほか、外需主導で高まりを見せている工作
機械業界では、工作機械用回転継手の販売が増加しました。

これら主要因により、上記のように、当中間期の業績は3
期ぶりの増収、2期連続の経常増益の結果となりました。



代表取締役社長
松浦賢治

「メーカー商社」として 世界の産業界に貢献します

ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととご拝察申
上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて当社第69期中間期(平成26年4月1日から平成
26年9月30日まで)における業績のとりまとめを終
えましたので、ここに第69期中間報告書をお届けし
ます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支
援を賜りますようお願い申し上げます。



Question

Question

当中間期のセグメント別事業の概況について教えてください。

Answer

当社顧客業界別の各セグメントの成績は、環境業界を除き、いずれも増収の結果となりました。

鉄鋼業界向けでは、バルブや原料搬送コンベア用ベルトクリーナーの販売が伸びたほか、製鋼副資材としての脱リン材や耐火物保護材の販売が好調でした。この結果、売上高は51億4百万円(前年同期比14.5%増)となりました。

自動車業界向けでは、工作機械で使用される回転継手の販売が伸長したほか、自動車の変速機部品向け洗浄機が売上増に寄与し、売上高は32億82百万円(前年同期比9.9%増)となりました。

電子・半導体業界向けでは、スマートフォン向け電子材料の製造時に発生する有害物質を除去するスクラバーや、自社製品である超音速ジェット湿式微粒化装置(G-smasher)の販売が売上増に寄与しました。電子・半導体業界向け全体での売上高は、16億9百万円(前年同期比36.4%増)となりました。

ゴム・タイヤ業界向けでは、国内大手タイヤメーカーが海外生産拡大に向けた設備投資の動きが見られました。こうした動きを背景に、北米、中国など、自動車生産が好調な地域のタイヤ生産設備向けパネル弁、ピストン弁の販売が伸びました。この結果、ゴム・タイヤ業界向け全体としての売上高は、14億19百万円(前年同期比8.1%増)となりました。

高機能材業界向けでは、今後の成長が期待される分野をにらんだ新素材開発が活発になっていることから、シールやフィルターなどの消耗品が好調だったほか、研究機関向け成膜装置の販売が増加し、同業界向けの売上高は、6億25百万円(前年同期比27.3%増)となりました。

環境業界向けでは、水処理施設向け高圧ポンプやゴミ処理施設向け粉粒体移送装置などプラス材料はあったものの、ボールジョイントや破碎機部品が減少したことで、同業界向け全体としての売上高は、6億11百万円(前年同期比8.3%減)となりました。

紙パルプ業界向けでは、回転継手やポンプ類の販売が堅調に推移したのにくわえ、抄紙工程の洗浄用シャワー摺動装置やルーツプロワの販売が売上増に寄与し、同業界向けの売上高は、2億97百万円(前年同期比1.9%増)となりました。

Question

「戦略ビジョン2014」最終年度への取り組み重要事項について教えてください。

Answer

目指すべき目標である継続的、安定的な収益を生むための基盤づくりが、確かな成果になりつつあります。

ここ3カ年の我が国の経済は、未だ本格的ではないものの徐々に回復の兆しが見えてきました。

この間、当社は「戦略ビジョン2014」を掲げ、不透明な状況のもとでも継続的・安定的に収益を生むための基盤づくりに努めてまいりました。戦略ビジョン2014のなかの事業方針のうち、①高付加価値ビジネスモデルの変革 ②海外事業の促進 ③人と組織の能力向上 は、仕組み・場・人材に関わるもので、形ができて運用しているところです。

それに加えて ④収益の源泉となる活動の強化 は足元の営業活動に関することで、これが顧客との接点で価値を創造する最も重要なことであると位置づけています。この3カ年、この活動の強化が個々の成果につながり、それが営業現場の自信にもなっています。残る最終年度もさらにこの活動に力を入れてまいります。

Question

今後に向けてのビジョン、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

Answer

商品とサービスの提供を通して、世界の産業界の発展に貢献できるサプライヤーでありたいと考えています。

3カ年を経て、日本経済の回復とともに当社グループも業績が回復しつつありますが、まだリーマンショック以前の水準までには至っておりません。

この間も、鉄鋼、自動車、半導体の当社主要顧客大手はすでに次の社会へ向けての生産活動に備えるべく着々と準備を進めています。当社もそれらに対応していくつかの施策をとったところです。具体的には現在まとめている次期中期3カ年計画になりますが、これまでに得られた成果をさらに拡大できるよう「戦略ビジョン2017」(仮称)へつなげていきたいと考えています。

今後も当社グループの総力を結集し、また、パートナーであるお客様とメーカー様のご協力によって得られたひとつひとつの成果を大切に、これらを力強く広げていくよう努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社グループへのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Corporate Identity

培われた伝統のもとに、さらに未来への飛躍を図るというイメージを表現しています。



R 自社ブランド「ROCKY」の頭文字

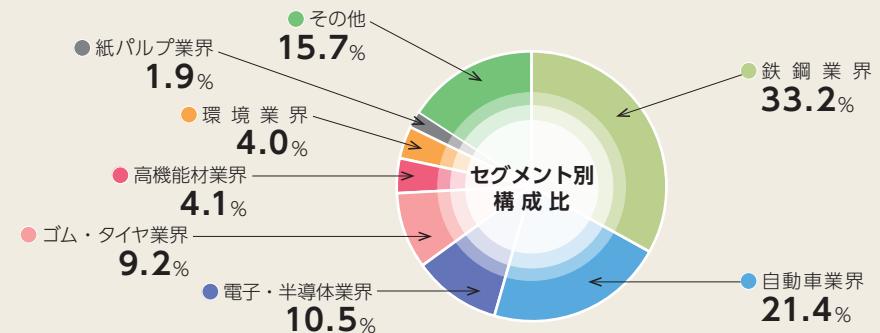
I INDUSTRY(工業/産業)の頭文字

X 無限の可能性と将来性

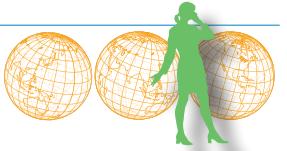
リックスの青色
信頼を表すブルー

リックスの赤色
躍動感あふれるレッド

セグメント別構成比



連結財務諸表



連結貸借対照表

単位：百万円

科目	前第2四半期末 (平成25年9月30日現在)	当第2四半期末 (平成26年9月30日現在)	科目	前第2四半期末 (平成25年9月30日現在)	当第2四半期末 (平成26年9月30日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	14,555	15,617	流動負債	9,371	10,268
固定資産	5,625	6,304	固定負債	1,019	955
有形固定資産	1,942	1,892	負債合計	10,391	11,223
無形固定資産	80	76	純資産の部		
投資その他の資産	3,602	4,335	株主資本	8,880	9,517
資産合計	20,180	21,922	資本金	827	827
			資本剰余金	683	683
			利益剰余金	7,490	8,128
			自己株式	△122	△122
			その他の包括利益累計額	468	672
			少数株主持分	441	508
			純資産合計	9,789	10,698
			負債・純資産合計	20,180	21,922

連結損益計算書

単位：百万円

科目	前第2四半期 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	当第2四半期 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)
売上高	13,686	15,359
売上原価	10,876	12,300
売上総利益	2,810	3,059
販売費及び一般管理費	2,265	2,438
営業利益	544	621
営業外収益	119	96
営業外費用	6	9
経常利益	657	708
特別利益	4	2
特別損失	0	5
税金等調整前四半期純利益	661	705
法人税等	287	303
少数株主損益調整前四半期純利益	373	401
少数株主利益	15	16
四半期純利益	358	384

連結包括利益計算書

単位：百万円

科目	前第2四半期 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	当第2四半期 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)
少数株主損益調整前四半期純利益	373	401
その他の包括利益	292	182
其他有価証券評価差額金	234	207
繰延ヘッジ損益	—	2
為替換算調整勘定	58	△28
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	0
四半期包括利益 (内 訳)	666	583
親会社株主に係る四半期包括利益	621	530
少数株主に係る四半期包括利益	44	53

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	前第2四半期 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	当第2四半期 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	982	△25
投資活動によるキャッシュ・フロー	△360	△102
財務活動によるキャッシュ・フロー	△961	239
現金及び現金同等物に係る換算差額	23	△14
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△316	97
現金及び現金同等物の期首残高	2,288	1,821
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	101	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,073	1,919

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円) / 売上高営業利益率 (%)



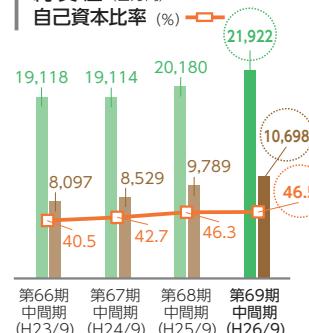
経常利益 (百万円) / 売上高経常利益率 (%)



四半期純利益 (百万円) / 売上高四半期純利益率 (%)

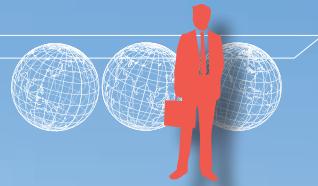


総資産 (百万円) / 純資産 (百万円) / 自己資本比率 (%)



1株当たり四半期純利益 (円) / 1株当たり純資産 (円)





わが国の経済はいまだ本格的な回復までに至らず、先行き不透明な状況にあります。また、当社グループの業績は国内製造業の設備投資ならびに生産活動に大きく依存しておりますが、今後、国内製造業の海外生産移管あるいは少子高齢化の進展により、国内市場が縮小することが危惧されます。

● **危機対応3ヵ年計画**
平成21年度～平成23年度

的・安定的な収益を生むための基盤づくりを行うため平成24年度から平成26年度までを対象として、中期3ヵ年計画「戦略ビジョン2014」を策定いたしました。

この新戦略ビジョンの下、各施策に邁進し、リックスグループは、お客様の課題をより専門的な立場から解決する顧客密着型メーカー商社として、世界の産業界への貢献を果たしてまいります。

● **戦略ビジョン2014**
平成24年度～平成26年度

戦略ビジョン2014(平成24年度～平成26年度)

ビジョン

リックスは、メーカー商社のビジネスモデルをつねに進化させ、高い営業力、高い技術力、高い商品・事業開発力を持つ、付加価値の高いニッチャーになる。

経営目標

経常利益**15億円(連結)**の達成

●事業方針

1 高付加価値化ビジネスモデルの変革

- 1) 営業プロセス改革の継続と生産・技術開発プロセス改革の導入
- 2) 新事業開発の推進
- 3) 新商品・新市場開発の推進

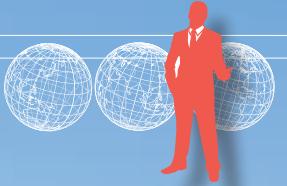
2 海外事業展開の促進

- 1) アジア、特に中国での事業展開の加速
- 2) その他地域への展開検討

3 人と組織の能力向上

- 1) 課題解決型人材(目利き)の継続的な育成と活用
- 2) 幹部候補の計画的な育成
- 3) 組織間連携を司る人材の育成と活用
- 4) 収益の源泉となる活動を支える人材の育成
- 5) 上記1～4の実現に向けて計画的なジョブローテーションを実行する

4 収益の源泉となる活動の強化



1 高付加価値化ビジネスモデルの変革

1) 営業プロセス改革の継続と生産・技術開発プロセス改革の導入

- 顧客商品マトリックス(A-KSM)に基づくターゲット顧客・商品の絞込み
- 顧客・仕入先メーカーとの信頼関係構築
- 結果管理・評価からプロセス管理・評価へ
- 営業所中期計画の立案・実行
- 自動車事業部・鉄鋼事業部の設立

顧客のより専門的なニーズに対応

2) 新事業開発の推進

- 事業開発本部の設立
- 開発及び事業化を全社的に統合推進
- 輸入事業推進部の設立
- 「輸入商品」の事業開発を全社的に統括

3) 新商品・新市場開発の推進

- FBプロ(食品プロ)の設立
- プライベートブランドの開発推進



2 海外事業展開の促進

1) アジア、特に中国での事業展開の加速

- 2012瑞顧斯貿易(上海)有限公司(瀋陽)出張所設立
- 2013継手製品の中国での製造拠点瑞顧斯工業(大連)有限公司設立
- 2013瑞顧斯(常州)機械制造有限公司(中国)の大連分公司設立

華北地区の営業・サービス拠点

- 2013瑞顧斯(常州)機械制造有限公司(中国)の広州分公司設立

華南地区の営業・サービス拠点

2) その他地域への展開検討

- 2012RIX Europe GmbH(ドイツ)設立
- 継手ユーザーのグローバル再編に対応
- リックス米国の検討

3 人と組織の能力向上

- 1) 課題解決型人材(目利き)の継続的な育成と活用
- 2) 幹部候補の計画的な育成
- 3) 組織間連携を司る人材の育成と活用
- 4) 収益の源泉となる活動を支える人材の育成
- 5) 上記1～4の実現に向けて計画的なジョブローテーションを実行する

- 次世代リーダー育成プロジェクトの実施
- ジョブローテーションの実施

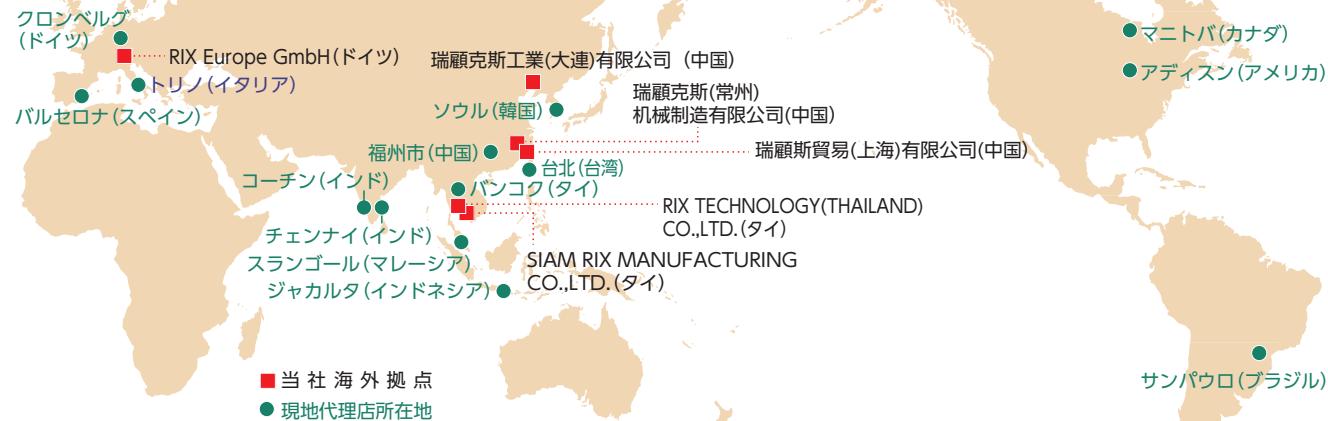
4 収益の源泉となる活動の強化

- ターゲット顧客への仮説提案営業の徹底
- VA提案の「やりつくす活動」実施

リックスグループネットワーク



海外ネットワーク (平成26年9月30日現在)



事業所 (平成26年10月1日現在)

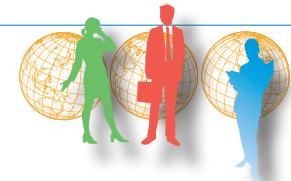
信頼と情報を支えるネットワーク網

先進技術、膨大なノウハウ、鋭敏な感性、そしてサービスも含めた高信頼性。これらは、全国に張り巡らされたネットワークをベースに、きめ細かなコンサルティング・セールスを展開することによって獲得してきました。ユーザーとともに歩むメーカー商社リックスは、なによりお客様との質の高い、多くの接点を大切にしています。

★管理本部	自動車事業部	自動車営業部	豊橋営業所、豊田営業所、西尾営業所、
	鉄鋼事業部	鉄鋼営業部	鹿嶋営業所、千葉営業所、君津営業所
★事業開発本部		鉄鋼本社担当営業部	
■営業本部	国内営業統括部	東営業部	苫小牧営業所、仙台営業所、宇都宮営業所、埼玉営業所、東京営業所、西東京営業所、横浜営業所、平塚営業所、北陸営業所、富士営業所、名古屋営業所、三河営業所、東海営業所、四日市営業所
		西営業部	滋賀営業所、大阪営業所、加古川営業所、和歌山営業所、倉敷営業所、広島営業所、周南営業所、四国営業所、北九州営業所、福岡営業所、長崎営業所、熊本営業所、大分営業所
■生産本部	海外営業統括部	海外営業部	営業グループ、業務グループ、鉄鋼グループ
		福岡事業所 関東事務所	
	■市場開発推進統括部		



会社情報 / 株式情報



会社概要 (平成26年9月30日現在)

- 商号 リックス株式会社
- 英文社名 RIX CORPORATION
- 創業 明治40年(1907年)10月
- 設立 昭和39年(1964年)5月1日
- 資本金 8億2,790万円
- 従業員 344名(連結543名)
- 主要な事業内容 高圧液圧応用機器、精密計測・検査機器等の製造販売

取締役および監査役 (平成26年9月30日現在)

代表取締役社長 松浦 賢治	取締役 橋本 忠
常務取締役 柿森 英明	取締役 安井 卓
常務取締役 川久保 昇	常勤監査役 大曲 宣彦
取締役 荻田 透	監査役 小西 正純(*)
取締役 芹川 康介	監査役 武藤 靖(*)

(*)社外監査役

株式の状況 (平成26年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 27,600,000株
- 発行済株式の総数 8,640,000株
- 株主数 9,561名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
NOK株式会社	1,167	13.83
リックス取引先持株会	486	5.76
安井玄一郎	470	5.57
株式会社西日本シティ銀行	382	4.53
リックス従業員持株会	345	4.09
安井龍之助	242	2.87
株式会社サニックス	240	2.84
山田貴広	175	2.07
園田和佳子	174	2.07
株式会社三菱東京UFJ銀行	152	1.80

注) 1. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
2. 上記大株主のほか、当社は自己株式197千株を保有しております。

株式分布状況

所有者別株式分布状況

- 個人・その他 60.03%
- 自己株式 2.28%
- 外国法人等 0.01%
- 金融商品取引業者 0.04%
- 金融機関 13.86%
- その他の法人 23.78%

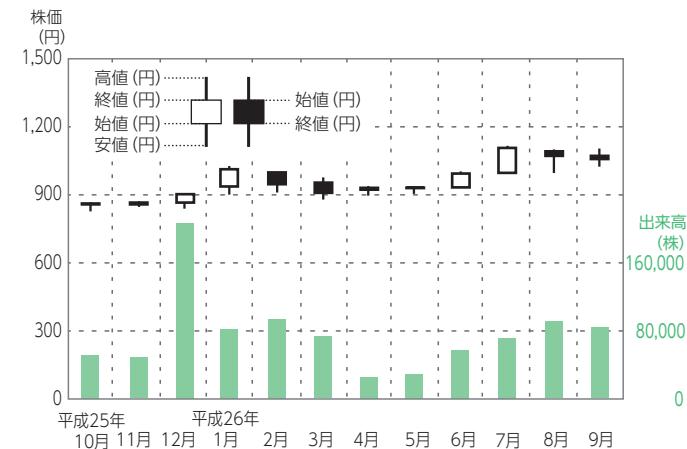


所有株数別株式分布状況

- 10単元未満 11.47%
- 10単元以上 4.16%
- 50単元以上 3.47%
- 100単元以上 18.40%
- 500単元以上 10.43%
- 1,000単元以上 38.57%
- 5,000単元以上 13.50%



株価および株式売買高の推移



株主メモ

■ 事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
■ 定時株主総会	毎年6月
■ 配当金受領 株主確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
■ 株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
■ 株式に関する各種手続の申込先について	<ul style="list-style-type: none">住所変更、単元未満株式の買取請求、買増請求、配当金受取方法の指定等は、お取引口座のある証券会社に申し出てください。ただし、特別口座に登録された株式に係る各種手続につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社に申し出てください。未払配当金のお支払いにつきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社に申し出てください。
■ 同連絡先	東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-232-711 (通話料無料)
■ 公告方法	電子公告により行います。 公告掲載 URL http://www.rix.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告します。
■ 単元株式数	100株
■ 上場証券取引所	東京証券取引所市場第二部 福岡証券取引所

株主優待制度のご案内

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに当社株式への投資の魅力を高めていただくため、株主優待制度を実施しています。



- 割当基準日
3月31日ならびに9月30日
- 優待内容
 - ・ 100株以上1,000株未満所有の株主様
→ クオカード1,000円分
 - ・ 1,000株以上10,000株未満所有の株主様
→ クオカード2,000円分
 - ・ 10,000株以上所有の株主様
→ クオカード5,000円分

当社ウェブサイトのIR情報のページに決算情報など最新の情報を配信しております。ぜひご活用ください。

<http://www.rix.co.jp/>

リックス株式会社

検索

